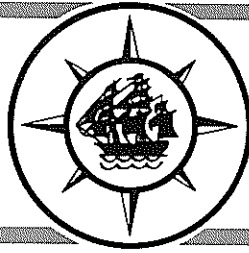


Operation Raleigh News

Operation
Raleigh

DENSO

No.28

昭和62年(1987)2月5日(木)
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で制作されたものです。

帆船ゼブ号

日本各地で50日間

那覇・名古屋・大阪・東京で一般公開

1984年9月、英国サザンプトンを出帆した帆船ゼブ号は大西洋、太平洋を越えて、いよいよ3月から50日あまりの日程で日本各地を訪問しようとしています。すでに地球を半周以上したゼブ号は、全長約31メートル、2本マストの小さな帆船ですが、海のロマンを全身にみなぎらせたその勇姿は、日本中の帆船ファンの熱い歓迎を受けることでしょう。



帆船ゼブ号は3月1日(日)沖縄県那覇港寄港を皮切りに、名古屋、大阪、東京に入港しますがそれぞれの港でのスケジュールは、つぎのように立てられています。

那覇

3月1日(日)那覇新港埠頭へ入港。午前11時から歓迎セレモニー、歓迎レセプションに参加。2日から4日まで船体の点検・整備作業へ。5日はゼブ号の一般公開。6日には一般市民を乗船させて、体験クルージング。その間ベンチャラーは沖縄県知事表敬訪問、陸上活動などに。7日(土)那覇新港を出港し、一路名古屋へ。

名古屋

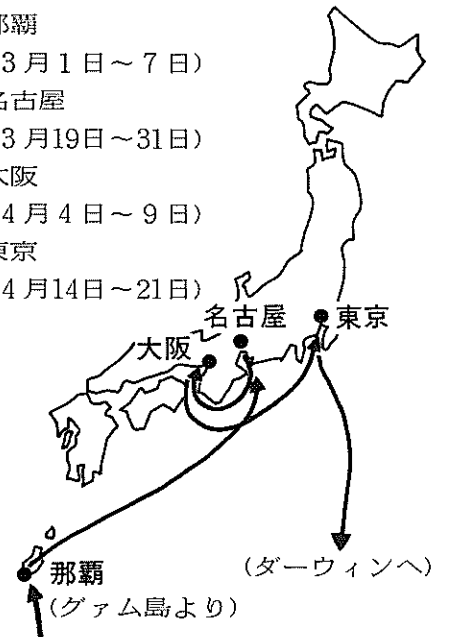
約13日間の航海で名古屋港ガーデン埠頭には3月19日(木)接岸。午前11時から歓迎セレモニー&レセプション。20日と23日・24日は点検・整備デー。週末の21日・22日は一般公開。ベンチャラーたちは上陸し、愛知県知事、名古屋市長らを表敬訪問。ゼブ号はその間、ガーデン埠頭での一般公開や体験クルージング。そして食糧などを積込んで3月31日(火)名古屋港を出港。

大阪

4月4日(土)大阪港天保山岸壁に到着。午前11時から歓迎セレモニー。

ゼブ号 来日スケジュール

- 那覇 (3月1日～7日)
- 名古屋 (3月19日～31日)
- 大阪 (4月4日～9日)
- 東京 (4月14日～21日)



体験クルージングや一般公開の間、6日ベンチャラーたちは大阪市長を表敬訪問、そして新しいフェイズのメンバーと交替。7日(火)には日本フェイズオープニングセレモニーに参加。8日は新しく乗り込んだベンチャラーの訓練デー。4月9日(木)日本最後の寄港地・東京に向けて出港。

東京

東京港晴海客船バースには4月14日(火)到着。15日には一般市民対象の体験航海、16日は一般公開。17日から20日までは船体の点検・整備と食糧積み込み。そしていよいよ4月21日(火)フェアウェルセレモニーの後、東京港を出港。太平洋を大きく回ってパプアニューギニア経由でオーストラリアのダーウィンへ向かう。

日本フェイズの実施要項正式に決まる

4月5日から知床・西表島などで

この4月から約3ヵ月間、オペレーション・ローリーは日本が主要な舞台となりますが、日本フェイズの案内リーフレットがORJCオペレーション・ローリー日本委員会からこのほど発行されました。それによると実施概要はつぎのとおりとなっています。

●期間／昭和62年4月5日(日)～7月5日(日)

●参加者／外国人青年100人＝うちイギリス70人、アメリカ15人、その他15人(ニュージーランド、イタリア、スイス、オーストラリア、カナダ、バハマ、オマーン、チリ)日本人参加青年20人、英国本部員7人、日本委員会本部員12人、その他現地協力団体、各地方自治体、協力者

●参加者編成／〔北海道〕A班：外国人15日本人3、B班：外国人15日本人2〔本州〕A班：外国人17日本人5、B班：外国人17日本人5〔沖縄〕A班：外国人13日本人2、B班：外国人13日本人2、C班：外国人10日本人1

●主管／OR英国本部、ORJCオペレーション・ローリー日本委員会

●後援(申請中)／総務庁、外務省、在日英国大使館、大阪市、沖縄県

●協賛／日本電装株式会社

大阪港で開会式

日本フェイズは4月7日(火)大阪港天保山岸壁でのオープニングセレモニーから本格始動します。ここから7班に分けられ、北海道、本州、沖縄に出発します。

〔北海道プログラム〕深い原生林と氷雪に覆われた早春4月の知床半島には海別岳、羅臼岳、知床岳など標高1,500m級の山々がそびえている。これらの山々を縦走調査し、知床岬に至る。アタック隊、サポート隊のA・B2班に分かれて外国人中心の登山隊としては初の試み。また、道のない知床半島の海岸線一周や地図にない沢への挑戦も。さらに知床半島横断登山道整備などの奉仕作業にも参加。

〔本州プログラム〕東海自然歩道の踏破、山伏のメッカ大峰山での奥駆け修行体験、木曾川のいかだ下りなどの冒険プロジェクトに取組む。また、高野山での座禅、三州足助屋敷での

伝統工芸技術修業などの日本文化の体験。さらに富士山麓での自然科学調査など。

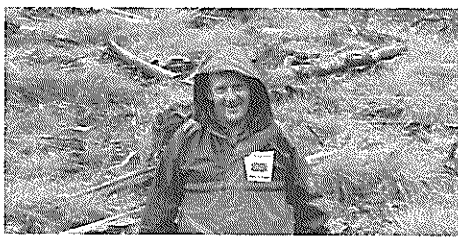


▲日本フェイズの案内リーフレット

〔沖縄プログラム〕世界的な珍獣イリオモテヤマネコの生態調査、マングローブ樹林の調査、14～15世紀の西表島内遺跡調査、洞窟探検、ウミガメ生態調査などの科学活動のほか潜水してオニヒトデ駆除、シャコ貝放流、稲刈りなどの奉仕活動も実施する。さらに14世紀頃から沖縄地方に伝わっているサバニ船(丸木でつくった漁船)で西表島から沖縄本島までを航海する。

6月下旬各地のプログラムを終えたベンチャーたちは全員富士山麓に結集し、富士登山道の整備奉仕、全体報告会、富士登山に参加。さらに東京に移り、体験フォーラムに出席、7月5日成田空港からそれぞれ帰国することになっています。

4月からの日本フェイズをひかえてORJCオペレーション・ローリー日本委員会は、その準備に余念がありませんが、事務局員のひとりが1月14日から1週間ニュージーランドフェイズの現地を訪れました。同フェイズのリーダーで、日本フェイズでも本部長を務めるトニー・ウォルトン氏と、日本フェイズに関する最終的な打ち合わせをすること、12月からこのフェイズに参加している日本人ベンチャーたちを視察することが、そのおもな目的でした。ベースキャンプのあるニュージーランド南島南西部のテアナウは夏とはいえ気温は日中でも20°C、朝晩は10°Cまで下がるうえに天気が変わりやすく晴・曇・雨を1日のうちに何度も体験できるということです。大草原(牧場)の真ん中にあるという表現が



ORJC事務局員 NZ現地を訪問

ふさわしいベースキャンプでのウォルトン氏との打ち合わせのほか、ヘリコプターを使って、ベンチャーの活動ぶりや日常生活を視察しました。

事務局員は帰国後の感想をつぎのように語っています。

今回の訪問にあたっては、目前に日本フェイズを控えていることもあって、単なる視察だけでなく「現場の空気に触れ、そこから何かを学び

とり、それを日本で生かしたい」という気持で行きました。まず第一に感じたことは、外国人と日本人という枠にはめた固定概念で考えることはできないということです。それぞれに国民性の違いがあり、さらにはパーソナリティーの違いがあるわけですから、すべての枠をはずして、個人対個人のつきあいを重視するべきだと感じました。また外国人は、独立心が強く、個でものを考え、自分が納得しなければ動こうとはしません。日本流の方法を押しつけることはできないと思いました。日本フェイズのスケジュールは現在内容の詰めにはいり最終段階にきていますが、決定事項といえどもフレキシブルな対応が必要なことも感じました。(写真は活動地でのトニー・ウォルトン氏)

岩ワラビー分布調査や海底探検

豪州ビクトリアフェイズへ日本から6名

1987年3月4日から5月26日までの日程で展開されるオーストラリア・ビクトリア州フェイズの活動計画が発表されました。日本からは1986年次日本代表派遣青年6名（金田寿正君、高田義隆君、砂子由美さん、藤原幸治君、田子真也君、岸美佐さん）が参加します。このビクトリアフェイズでは、気候も地形も異なる4つの地域での活動が予定されています。



金田君



高田君



砂子さん



藤原君



田子君



岸さん

① **グランピアン地域** 沼地や窪地の多い火山性の平原や厳しい山岳地帯で、大規模な鉱脈が露出しているところもある。

② **アルペン地域** 大分水嶺の流れをくむ鉱山地帯。深い樹木に覆われた谷、厳しい山陵のほか、草原・低雑木・ユーカリの高木などの高原が続く。また急流が多く、気温も昼は3から10℃、夜は氷点下になることもある。

③ **ウィルソンズ岬地域** ビクトリア州最南端の岬。花こう岩の岩壁が50mほども海から突き出し、壮大な風景をみせている。海は透明で岩の多い砂浜があり、沖には小島が散らばっている。

④ **大砂漠サンセット地域** 亜乾燥地帯で、いくつもの砂漠状の丘陵がある。海拔200m以下だが、気温は昼間プラス30℃、夜間マイナス3℃と大きく変化する。



●概略日程●

- 3月4日 ベンチャラー大半がメルボルンへ結集。
- 6日 第1プロジェクト地へ
- 4月2日 第2プロジェクト地へ
- 8日 第3プロジェクト地へ
- 5月22日 ベースキャンプ地へ帰還
- 26日 ベンチャラーの大半帰国

●科学調査●

■岩ワラビーの生態調査

グランピアン地域での活動。ビクトリア州では絶滅の危機に瀕している岩ワラビー（有袋目カンガルー科の小動物で高山に生息する）の頭数、分布状況調査。険しい高山を歩き、岩登りをしなければならない。岩ワラビー調査はアルペン地域のスノウィ川上流でも実施される。

■野生馬の生態調査

アルペン地域の国立公園内で岩ワラビーとともに、野生馬などの生態調査を行なう。

■海底考古学調査

ウィルソンズ岬でのプロジェクトで潜水による昔の沈没船調査、アボリジニーの遺跡発掘・壁絵探し調査などを実施する。

■砂漠の野生動植物調査

大砂漠サンセット地域の野生動植物の調査活動。

●冒険活動●

■スノウィ川下り

アルペン地域のスノウィ川での筏川下りやカヌー訓練。

■スキューバ・ダイビング

ウィルソンズ岬周辺での沈没船探検調査活動のためのスキューバ・ダイビング。

●奉仕活動●

■アボリジニーへの奉仕活動

1862年に建てられた古い教会の復旧作業や体育館の増築工事の手伝い。

■国立公園施設の建設

アルペン地域の国立公園施設づくりに協力。

■山道づくり

ウィルソンズ岬の急な斜面に道をつける奉仕作業。

■海洋公園整備に協力

ウィルソンズ岬の海洋公園整備に協力する活動など。

NZ委員会から便り

ORニュージーランド委員会（本部：クライストチャーチ）から現在進行中のニュージーランドフェイズについてのレポートが届きました。

ニュージーランド南西のフィヨルド地方は世界でも有数の野生地であり、そのためキャプテン・クックがこの地に初めて足を踏み入れてから200年以上たっても奥地の谷が探検されたに過ぎません。

そびえ立つ山々は氷に覆われ、長い時間をかけて形成された氷河はフィヨルド独特の地形やきり立った湖をつくりました。

海岸沿いの森には世界的な珍鳥カカポ（夜行性オオム）がいます。また海岸にはペンギンやアザラシが住んでいます。赤鹿、野豚、大鹿なども草地を歩き回っています。しかしこの野生天国は気候が厳しく、寒さや豪雨によってすぐ冷害や干ばつが起きます。

ニュージーランドフェイズに参加した世界各国の若者たちは、この困難な土地で生活し、移動できるよう特別な訓練を受けました。いまでは小道、橋、小屋の建設や絶滅の危機にある動物たちの科学調査、氷河の調査などにがんばっています。

これまでベンチャラーたちのリーダーは英国の探検家チャールズ・バートン氏が担当していました。彼は南極、北極の両方に到達したことのある2人のうちの1人です。

日本代表派遣青年のページ

戸島・渡辺組グアムで 帆船ゼブ号に乗る

日本フェイスの先遣隊として日本各地に寄港する帆船ゼブ号に乗組む日本代表青年の戸島仁嗣君と渡辺美和さんは1月21日(木)にグアム島を出航するゼブ号に乗るため、1月18日成田空港発日本航空機で出発しました。出発前に二人がアンケートにすぎのように答えてくれました。

——OR応募の動機は？

戸島 自分への挑戦と国際化というものに触れてみたかったから。

渡辺 帆船に乗ってみたいくて。

——出発にあたっての不安は？

戸島 英国人の英語が聞きとれるかどうか心配です。

渡辺 もう開き直りの心境です。

——家族・友人の反応は？

戸島 喜んでくれました。

渡辺 みんな応援してくれます。

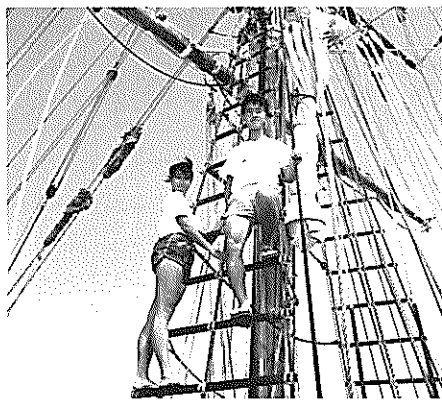
——参加にあたっての抱負は？

戸島 自分の役割を果たしながら、十分に毎日を楽しみたい。

渡辺 Do My Best!

——これまでにどんな準備を？

戸島・渡辺 とくにこれといった準



備はしませんでした。

——やり残したことは？

戸島 日本のことについて説明できるものが、まだまだ十分ではない気がしています。

渡辺 英語をもっと勉強しておきたかったです。

——航海では何を主眼に？

戸島 渉外能力を磨きたい。

渡辺 はっきりと考えていないが、子供のような素直な心で、より多くのことを吸収してきたい。

——帰国後の予定は？

戸島 日本フェイスに参加します。

渡辺 職場に復帰します。

——これから出発する人へのメッセージをどうぞ。

戸島・渡辺 楽観的に、気楽に行こう、ですよ。

ト(藪の中を進むトレーニング)をやりました。思ったよりきつくなく背たけほどもあるシダの中をずんずん歩きました。丹沢より楽でした。でもタフな他のベンチャーはそれから山ヘランニングやハイキングに出掛けます。ニュージーランドは山好きにはたまらないところみたいです。たしかにきれいなところですよ。

夕食が終ってホッとしているとあのサンドフライというものに襲撃されました。はっきりいってこの虫には泣かされます。あー、この山の中でこの虫と2週間暮らすのだっ……。この後のプロジェクトは2月上旬にダイビングに行きます。海面から5mはまっ黒な海でその下は本当にクリスタルだそうです。一緒に行く人はPADIのダイブマスターとかインストラクターだとかすごい人ばかりです。他のグループでは陶山さんは1ヵ月キウィを追いかけ、もう1ヵ月はブレイクシー島というところでネズミ退治やペンギン生態調査をやるそうです。

豪州フェイスの藤本君 ロンドンに滞在

昨年5月から7月までオーストラリアのノーザンテリトリー・フェイスに参加し、その後同地区の政府機関で観光資料の翻訳や動物調査に従事していたベンチャーの藤本圭太君は、クリスマス、お正月をロンドンで過ごし、ORJCに近況を伝えてきました。

日本はもう雪のちらつく頃でしょうか。ロンドンではクリスマス前に雪が降り、お正月は凍てつく寒さに言葉を失っています。

ロンドンのOR本部で日本フェイスに参加する英国ベンチャーの住所をいただきました。彼らが日本に発つ前に日本についてのアドバイスをしあげようと思っています。ちょうどいま、日本フェイス向けの機材、食糧のチェック、搬送作業が始まっています。僕もそれを手伝うことにしました。日本の運送会社と本部との連絡役です。日本フェイスの成功のために僕は最大限の協力をするつもりです。帰国予定は3月18日成田着です。(1月8日)

NZフェイス便り

12月から3月の予定でニュージーランド・フェイスに参加中の6人のうち、井田浩二君と郡由紀子さんから便りが届きました。

ワナカ湖で潜水など 井田君のスケジュール

こちらに来てはや1ヵ月、しかし言葉では、まだかなり苦労しています。クリスマスにお世話になったホームステイのお宅がキャンプからそう遠くないので、プログラムの休みにはちょくちょくお邪魔していろいろ楽しませてもらっています。今後の日程が決まりましたのでお伝えします。

1月12日～14日：フィヨルド国立公園の小旅行のアシスタント

1月16日～2月2日：ケプラーで散歩道づくり

2月9日～16日：ワナカ湖で潜水しての雑草刈り

2月23日～3月2日：ロックスバークでハンディキャップをもった子供たちのサマーキャンプに参加

この後、3月24日にニュージーランドを離れるまで、できれば南島を自転車で走り回る予定です。

“サンドフライ”の襲撃 郡さんも元気に活躍

ケプラートラックのビッグスリップというところにいます。ここにはたった5人のベンチャーがいるだけです。これまで本当に寒かったけれどここ2～3日は暖かくて快適です。昨日まで3日間ブッシュクラフ